

「でんきと私」

鈴鹿工業高等専門学校
電子情報工学科 3年 大川 晴

昨年12月、私たちは一月かけて簡単なWebアプリケーションの開発を行った。何を作ったかと言うと、おみくじである。ページにログインボタンを押すと、ランダムに結果が表示される。たったこれだけの動作をさせる為に、理解しなくてはならない事が山積みであったと実験を通して思い知らされた。仮想環境や Docker、ルーティングなど、高専に入るまでプログラミングに殆ど触れてこなかった自分にとっては初めての連続だった。周囲の人の助けも借りながら、何とか年末までに完成に漕ぎ着けた。

新型コロナウイルスの感染拡大によって状況が一変し、新たに需要が高まっているアプリ・ビジネスがある。

まず一つは Zoom などの会議システムである。遠隔授業やテレワークには欠かせないものだ。私の高専では昨年の前期は全て遠隔授業だった。そしてこれを書いている正に今日、学生と教職員の感染が発覚して来週から再び遠隔に切り替わると決まったばかりである。

次にフードデリバリーである。外食を控える人にも、売上が急落した飲食店にも嬉しいサービスだと思う。私はまだこれを利用した事はないが、メディアで見ると明らかにコロナ禍で需要が高まっている。

また、昨年の世界モバイルアプリ市場は前年比19.7%増の約1330億ドルに達した。更に一昨年は前年比で30.2%も増加していたという。市場は成長を続けている。

これらを見て私が思うのは「これから必要とされるアプリは何だろうか」という事である。目まぐるしく変わる世の中で自分に出来る事は何なのか。様々な視点から「今」を見つめ、考えていきたい。